

公益財団法人とよなか国際交流協会
2016 年度年次報告書 (概要版)

こくりゅう@home 2016

2016年4月1日～2017年3月31日 (23期)

公正で持続可能な多文化共生社会をつくります



とよなか国際交流協会 2016 年度年次報告書（概要版）こくりゅう@home 2016

も・く・じ

もくじ・とよなか国際交流協会の活動について 2
 理事長・事務局長あいさつ 3
 外国人をとりまく現状と ATOMS の取り組み 4-5
 <各事業からの報告>
 ・学習支援・サンフレイス/子ども母語 6
 ・多文化保育にこにこ/韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい 7
 ・若者支援/多文化子どもエンパワメントメディアプロジェクト（てーげー部） 8-9
 ・とよなかこどもにほんご教室/小学校外国語体験活動事業 10
 ・子ども学習広場「学楽多」/国際教育 11
 ・多言語相談サービス事業 12-13
 ・高齢者支援調査事業/防災事業 14
 ・留学生・ホストファミリー事業 15
 ・しょうない・おやこでにほんご/おかまち・おやこでにほんご 16
 ・せんり・おやこでにほんご/千里にほんご準備会議 17
 ・日本語交流活動「もっともつつかえるにほんご」「とよなかにほんご・木ひる」 18
 ・日本語交流活動「とよなかにほんご・金あさ」「にちようがちゃがちゃん」 19
 ・平和と共存のための～おまつり地球一周クラス/多文化共生推進事業 20
 ・ボランティア養成・研修・哲学カフェ/持続可能な開発のための教育の 10 年（ESD）とよなか
 /メディアリテラシー・市民セミナー/講師派遣 21
 ・市民活動協働事業/施設管理受託事業 22
 協力者ご芳名 23
 財務報告 24-25
 TOPICS 26
 役員紹介/スタッフ紹介 27
 広告協賛 28-32

とよなか国際交流協会の活動について

～公正で持続可能な多文化共生社会を創ります～

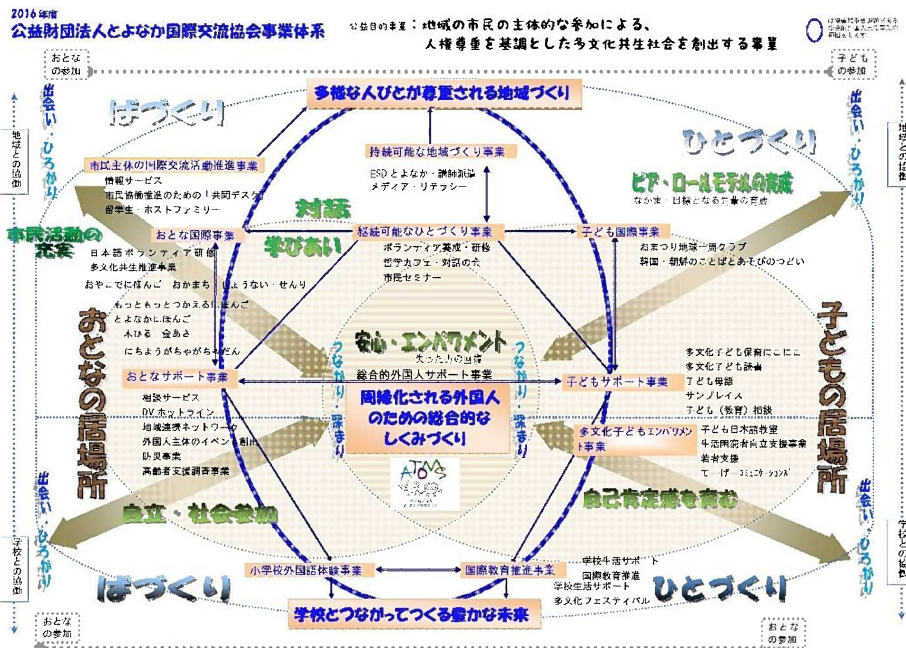
外国人が安心して集える居場所づくり&エンパワメントをすすめる事業や多文化共生社会を推進するひとづくりを中心に、さまざまな活動を地域や学校と連携しながら日常的に展開しています。

【活動理念】市民の主体的で広範な参加により、人権尊重を基調とした国際交流活動を地域からすすめ、

世界とつながる多文化共生社会をつくる

受賞歴	
2016. 10	大阪 NPO センター CSO アワード CSO 賞
2014. 01	大阪弁護士会 人権賞
2013. 05	憲法記念日 大阪府知事 公共関係功労者賞
2013. 02	公益財団法人パナソニック教育財団 2012 年度 「子どもたちの“こころを育む活動”」奨励賞

公益財団法人とよなか国際交流協会
 住所：大阪府豊中市玉井町 1-1-1-601
 エトレ豊中 6 階 とよなか国際交流センター
 TEL:06-6843-4343 FAX 06-6843-4375（水曜休館）
 E-mail: atoms@a.zaq.jp URL http://www.a-atoms.info



理事長あいさつ

皆さん、いつも当協会にご支援賜り、誠にありがとうございます。

当協会では、ご好評につき、昨年に引き続き、今年も当協会の年次報告書（市民向け概要版）を作成いたしました。今年も写真が一杯で、それぞれの活動を説明する言葉と相まって、関わっている人たちの意気込みが伝わってくる、そんな年次報告書ができたのではないかと考えています。

さて、先日とよなか国際交流センターの通路脇のいすに座って、しばらくポーツとしていました。ある金曜日の午前中のことです。多くの老若男女（もちろん国籍も様々）が、目の前を行き来しています。見渡しますと、あっちでは、多文化子ども保育で忙しそうな人、こっちでは日本語交流で忙しそうな人、向こうには、多言語相談に備えて忙しそうなスタッフ。サポートを受ける人も、ボランティアさんも、スタッフもここでは皆元気そうです。エネルギーにあふれているように見えます。人と人のふれあいが、文化と文化とのふれあいが、もともと各々の持っているエネルギーを引き出し、さらに新たに生み出しているような気がしました。

皆さんには、この2016年度年次報告書をお読み頂きながら、当協会の様々な事業で、人と人がふれあい、文化と文化とがふれあって、そうしてエネルギーが生まれている様子を、時折ちょっと立ち止まって、想像していただければうれしいです。

では皆さん、今後とも当協会をよろしくお願いいたします。

まつもとやすゆき

松本康之（理事長）



事務局長あいさつ

2016年度は、とよなか国際交流センターの第3期指定管理（2016～2020年）の1年目として、これまでの事業に加えて、新たな事業にも取り組んできました。

例えば、学習支援事業「学楽多（がらくた）」ではセンターと市南部の庄内地域で活動を始めました。せんにほんご準備会では千里公民館・図書館と1年かけて準備をし、2017年4月から日本語交流活動「千里にほんご」をスタートしました。豊中市や大阪大学大学院とは、災害時の多言語支援センターの設置、平時も含めた外国人への情報提供を充実させるための協定を締結しました。今後も多様な機関・団体と連携することで「周縁化される外国人のための総合的なしくみづくり」を進め、豊中市における多文化共生をより確かなものにしていきたいと思ひます。

広く世界を見渡すと、移民や難民の受入れなどをめぐって、多文化共生や平和に対して逆風が吹いているように感じる時があります。その一方で、2016年度は障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消法など、マイノリティの人権擁護、社会啓発、社会づくりの必要性が改めて認識され、動き始めた年でもありました。

なかなか思うように進まないこともあります。逆風は突き進んだり、ひょいと避けたり、やり過ぎしたり。そして追い風にはふわっと乗ったりしながら、豊中の多文化共生をみなさんと一緒に進めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

やまのうえたかし

山野上隆史（事務局長）



外国人をとりまく現状と ATOMSの取り組み

とよなか国際交流協会

通称 **ATOMS**

基本理念

市民の主体的で広範な参加により、
人権尊重を基調とした国際交流活動を
地域からすすめ、世界とつながる
多文化共生社会をつくる。

事業の三本柱

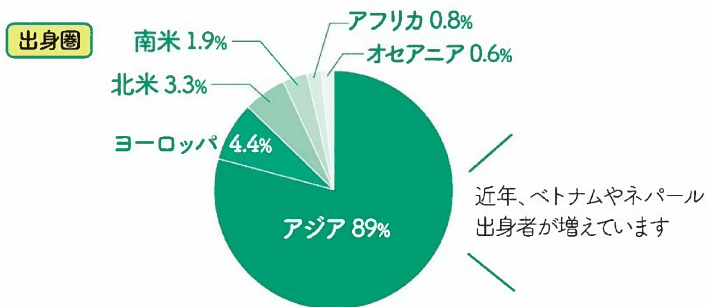
- ① 多様な人々が尊重される地域づくり
- ② 周縁化される外国人のための総合的なしくみづくり
- ③ 学校とつながってつくる豊かな未来

豊中市の外国人人口と国籍数の推移



人口に大きな変化はないが国籍数が大幅に増加。

より多様な国や地域の人々が暮らしていることがわかります。



センターの年間利用者数 (2016年度)

82,673人 うち外国人 **32,195人** 全体の約40%

取り組み①

外国人のライフステージに沿った多様な支援

乳幼児

- 多文化子ども保育「にこにこ」
- おやこでにほんご
▷ おかまち、しょうない、せんり

子ども

- こども母語
▷ 中国、スペイン、ポルトガル、タイ語 (計4言語)
- 学習支援「サンプルイス」
- 韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい
- こども日本語教室

わかもの

- 若者支援事業
▷ たまりば、相談、にほんご
- 留学生・ホストファミリー事業

おとな

- 日本語交流活動
▷ もっともつつかえるにほんご、木ひる、金あさ、にちようがらががちゃだん、千里にほんご
- 多言語での相談サービス
▷ 英、韓国・朝鮮、中国、タイ、インドネシア、ベトナム、スペイン、ポルトガル、ネパール、フィリピン語 (計10言語)
- おやこでにほんご

高齢者

- 多言語での相談サービス

日本語指導を必要とする子どもの数

〔全国〕・外国籍の子ども 34,335人
・日本国籍の子ども 9,612人

〔大阪府〕 2,275人

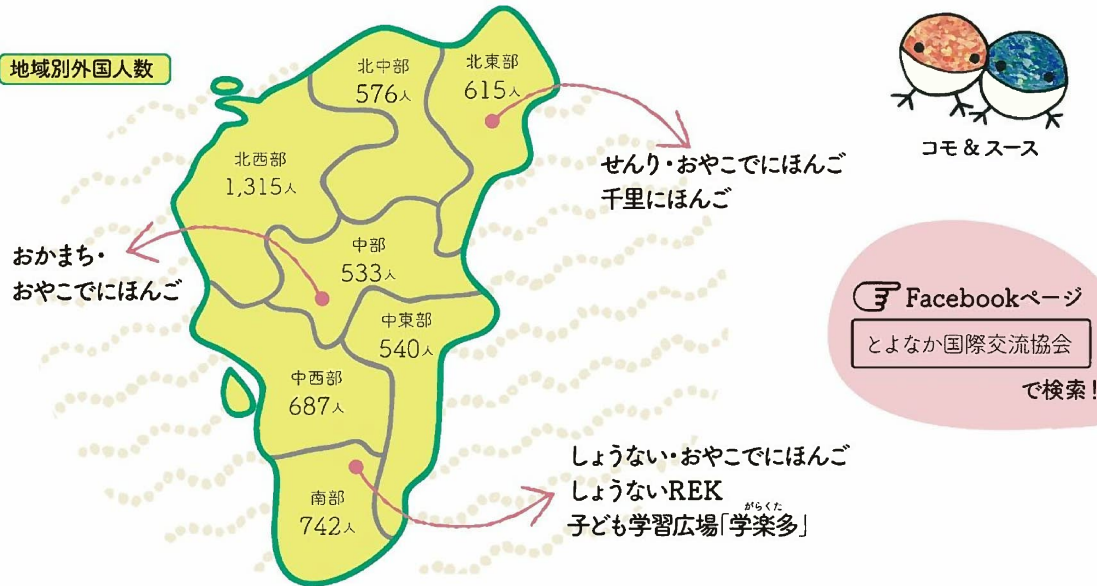
豊中市内の外国人児童・生徒 147人
帰国児童・生徒 92人

国際結婚の割合(全国)
30組に1組

豊中市の外国人高齢者*の数 640人
高齢化率は12.8% ※65歳以上

取り組み②

センターから飛び出して実施している事業



取り組み③

地域で活動する市民ボランティア

ATOMSで活動するボランティア 約**490**人

- にほんごボランティア：142人
- ママさんボランティア：32人
- 大学生・高校生ボランティア：28人
- 外国人ボランティア：75人
- ホストファミリーボランティア：104家族
- *参考 賛助会員：325人 など

取り組み④

さまざまな団体と一緒に取り組む活動



学校との協働

- 小学校外国語体験活動
- 多文化フェスティバル
- 講師派遣



図書館との協働

- 「おやこでにほんご」
▷ 岡町、庄内、千里図書館
- 多文化子ども読書推進事業



地域のさまざまな団体との連携

- しょうないREK
▷ 外国にルーツを持つ中学生のための
進路相談会@庄内 など
- 豊中市スポーツ振興事業団
▷ 「サムライプロジェクト」(外国人のための武道体験)
- とよなか国際交流センター登録団体との連携
▷ 国際交流フェスタ など
- 共同デスク*
▷ 壁新聞の発行

※(社福)豊中市社会福祉協議会、(一財)とよなか男女共同参画推進財団、(公財)豊中市スポーツ振興事業団、(特活)とよなか市民環境会議アジェンダ21、とよなか市民公益活動協議体 らっぶ、(公財)とよなか国際交流協会の6団体が共同運営している事業。

受賞歴

- 2016.10 大阪NPOセンター CSOアワード CSO賞
- 2014.01 第13回大阪弁護士会 人権賞
- 2013.05 憲法記念日 大阪府知事 公共関係功労者賞
- 2013.02 公益財団法人パナソニック教育財団 2012年度「子どもたちの“こころを育む活動”」奨励賞

■ (公財)とよなか国際交流協会は指定管理者としてとよなか国際交流センターの管理・運営を行っています。

各事業からの報告

こども
サポート
事業

学習支援・サンフレイス

外国にルーツを持つ子どもたちのための居場所づくり。大学生ボランティアが運営しています。
毎週日曜日 13:00~15:00 (第一日曜日は休み)



ボランティアより

2016 年度を 振り返って

サンフレイスでは2016年度子どもの居場所としてさまざまな取り組みをしました。サンフレイスでは毎回、子ども同士やボランティアと「今日は何する?」と言いながら、思い思いの活動が始まります。年上の子どもが低学年の子どもに遊びのルールを教えたりしながら、ルーツや年齢の垣根を越えた居場所として活動することが出来ました。また2016年度からはダンスにも取り組み、「豊中まつり」ではパフォーマンスを披露しました。



写真左上) 年末のお楽しみ会。みんなでフルーツバスケット!
写真右上) サンプレではやりたいことがやれる! ダンスで豊中まつりにも出ました。
写真左) あなたも一緒に楽しく遊びませんか?!

2017 年度に向けて

今後子どもたちが安心して集まれる場所、来たらホッとするような居場所になれるようにボランティア同士相談しながら子どもたちとサンフレイスを作りあげていきたいです。

こども
サポート
事業

こども母語

外国にルーツをもつ子どものための母語教室。中国語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語(2016年度より開始)を開講しています。(インドネシア語は2016年度より休み)講師はそれぞれのルーツをもつ若者です。
第2、第4日曜日 10:00~12:00



ボランティアより

2016 年度を振り返って

子ども母語ではスペイン語、ポルトガル語、中国語、タイ語の4言語を開催しました。いずれの言語も子どもたちにとって母語を勉強する場、そして同じルーツを持つ子どもや講師と繋がる場として多くの子どもたちが時間を過ごしました。また言語ごとにイベントを各言語合同で開催し、それぞれの国の文化や料理を紹介しあうことも出来ました。

写真上) 授業風景。自分のルーツの言葉にみんな真剣!
写真右) ブラジルの朝ごはんを再現! こども母語では様々なイベントを企画しています。



2017 年度に向けて

2017年度は子ども母語をもっと知ってもらい、より多くの子どもたちが利用できるように広げていきたいです。また各言語間の交流を進めていきたいです。

こども
サポート
事業

多文化子ども保育「にこにこ」

外国にルーツをもつ乳幼児のための保育活動。保育ボランティアが運営しています。
毎週木曜日 13:30～15:30 / 金曜日 10:30～12:00

ボランティアより



仲良く粘土あそび

2016 年度を振り返って

いろいろな国から来ている就学前の子どもたちが一緒にセンター内のプレイルームで遊んでいます。年齢や国が違って子どもたちの世界は同じです。ボディランゲージやアイコンタクトで話をしたり、少しずつ言葉を発するようになったり、日々の成長には素晴らしいものがあります。保護者が安心して預けて、そして子どもたちも笑顔で楽しく過ごせるようなお部屋作りを心がけています。ボランティアも子どもたちに会うのが楽しみです。

2017 年度に向けて

子どもたちがしたいことが出来て、遊びたいおもちゃで遊ぶことができる環境を用意して、みんなで新しい子どもたちが来るのを待っています。外国の保護者の方も心配しないで、是非お部屋を見に来てくださいね。



写真左) とっても優しいボランティアのみなさん
写真右) 上手にボールをキャッチできるようになりました!



こども
国際
事業

韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい

韓国・朝鮮にルーツをもつ子どもたちが集まり、民族講師(ソンセンニム)や友達(チング)と自分たちの歴史や言葉、遊びなどの文化を学んでいます。毎月第3土曜日午前中に開催。

共催団体の豊中市在日外国人教育推進協議会の先生方より

2016 年度を振り返って

今年度、参加する子どもたちがとても増え、合わせると37人にもなりました。小学生、中学生だけでなく、子ども園の子どもたちも来てくれます。また、初めての試みとして、10月に「生野コリアタウン」にフィールドワークに出かけ、歴史やまちの人の願いについても学ぶことができました。11月には多文化フェスティバルにもブース出展し、参加者のみなさんに、韓国・朝鮮の遊びや民族衣装の試着を体験していただきました。



2017 年度に向けて

2017 年度も毎月のつどいを楽しく活動できるように、スタッフがアイデアを持ち寄りながら進めていきたいです。もっと多くの子どもたちが参加できるように、さらに広く呼びかけていきたいです。



写真上) コリアタウンへフィールドワークの様子
写真下左) ユンノリをする子どもたち
写真下右) 数字の学習

多文化こども
エンパワメント
事業

若者支援事業

外国にルーツをもつ若者のための居場所づくりをさまざまな角度から行っています。(文化庁委託事業) 15歳以上の外国にルーツをもつ若者が中心となり、国際交流センターはもちろん、地域で色々な活動に取り組んできました。



たまりばで作った料理をおいしそうに食べる参加者。話にも花が咲きます。



若者の「たまりば」 2016年度を振り返って

たまりばは、外国にルーツのある若者がゆるく集まって楽しむ場所です。2016年度は時間帯を土曜日の17時～20時に変え、定時制の生徒も来やすくなりました。毎晩、料理を参加者と一緒に作りながら、話をしながら、自分が好きなように時間をすごしています。時には講師を呼んで、ゆったりとした空間の中で講座などもやっています。

今年も参加者の多くは社会人や学生で、また、参加している若者のやってみたくらいという声に答えて、楽器を思い思いに演奏する時間を作ったりもしました。毎週ほぼ欠かさず開催して、若者たちの忙しい日々、ほっと一息、スキマになるよう活動しました。

コーディネーターより

若者相談

2017年度に向けて

2016年度は多忙も合わさって、反省点も多いものでした。受け身になるのではなく、能動的に「相談」としての活動に取り組んでいきたいと思っています。

コーディネーターより

若者のたまりば 2017年度に向けて

2017年度から、たまりばは日曜日に移動します。よりじっくり若者が話をしたり、日々の悩みや困りごとでも考えられる時間にしたいです。また、日曜の朝・昼に行われている子ども事業の活動と、楽しいコラボをしていきたいです。

若者相談

若者相談 2016年度を振り返って

土曜日に開催したことで、平日働いており見えにくくなりがちな若者の労働に関するケースを拾うことができました。また、相談時間内ではなく若者が集う「たまりば」や「たまりば」の前後に若者の困りごとや悩みを話すことができる時間と関係を築くことが出来ました。予約しての相談ではなく、普段の活動の中で若者が自分自身の困りごとを見つけるプロセスに寄り添うことが必要なことが分かり、今後のあり方の大きなヒントとなりました。



相談員はたまりばの活動にもかかわりながら、話を聴きます。一緒にケーキカッティング♪